

起因物、事故の型：金属材料 - 崩壊・倒壊の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	業種小コード	労働者規模
1	9~10	自社工場にて、工場に立てかかっている鉄板をチェンブロックで吊る際に、縦吊りクランプを入れる隙間がなかったため、手前に起こした際に鉄板が倒れ掛かってきて抑えようとしたが、重さに耐えきれず、逃げ遅れて右足を被災した。	61	11209	1~9
1	10~11	鉄筋出来形撮影用に準備中、鉄筋を結束線で（直立させるため）仮止めていたところ、垂直にしようと引っ張ったところ、反対側の結束線が外れ、鉄筋がひしゃげて右背部に倒れ被災した。	45	30199	100~299
1	9~10	ヤード内にて整備作業中、A支柱（14kg/本）を60本束に番線結束した束の番線を切った際、崩れたA支柱が右足甲にあたり負傷した。	67	80409	10~29
1	8~9	L型に加工した鋼製の角パイプ部品をグラインダー作業中、角パイプが転倒し、右足の内くるぶしから甲にかけて打撲した。	26	11301	10~29
1	16~17	第二工場で、二段に重ねた上段の金属製パイプの束（Φ5cm×1m×24本）にベルトスリングを巻き付けていた。束の座りが悪いことに気付かず束に触れた時、上段の束が手前に崩れ落ち、左足を受傷した。	25	11202	30~49
2	14~15	本人は、仕上工程でフォークのグラインダー作業をしていた。本人は、当日入社で午前中に受入教育を受け、午後から現場に配属され作業手順の指導を受けていた。災害発生時は職長がやって見せ、やらせるを交互に行い手順を指導していた。職長が他工程の異常処置に入った際に、本人は作業を継続し、フォークの姿勢変換をしようとした。右手でフォーク立上り部を持ち、フォークを左側に倒した。その際、左手を定盤上に置いていた為、フォーク立上り部と定盤の間に左手中指を挟んで受傷し	29	11509	50~99

		た。			
2	15~16	倉庫内の棚として使用する部材をフォークリフトで倉庫内を運んでいた。その部材を地面に降ろす際に、部材が、フォークリフトのタイヤに接触し乗り上げてしまった。負傷者ともう1人の計2人で部材をタイヤより外したが、外したと同時に負傷者が尻もちをついてしまい、負傷者の脛に部材が落下した。部材は跳ねて再度負傷部分の左くるぶしに落下した。	22	11202	50~ 99
2	15~16	第一工場において、縞鋼板を加工する作業中に、倒れてきた縞鋼板（4.5mm厚、1219×2438）4枚、約440kgと運搬用に駐車していた2tトラックの荷台に左腕を挟まれ骨折した。	22	11209	30~ 49
2	13~14	工場内船底骨組みサブ加工場において、引っ張り工具（レバブロック1.5t）を使用して仮止め溶接した鉄板（約180kg）を引き起こしていた時、仮止め溶接が割れ、鉄板が被災者の方向に倒れかかってきて、鉄板についていた補強鉄板が左足に当たり内果部位を骨折負傷したものである。	28	11501	1~9
2	10~11	機械が材料切れにて停止したため、機械北側原線置き場に立て掛けてある次に伸線する原線（1tコイル径7mm）のメタルタグを確認後、原線の正面に背を向けた状態で傍らに止めていたリフトに乗ろうと振り返った時、原線が倒れてきて左足が下敷きになり被災した。	52	11209	100 ~ 299
3	13~14	資材置場にて足場材を積み上げて片付けていたところ、積み上げていたものが崩れてきて右手小指を挟んだ。	42	30209	10~ 29
3	14~15	本社倉庫前の駐車場において、建築現場に向かうため倉庫からトラックへ道具や資材を積み込んでいたところ、立てかけてあった鋼材が倒れてきて左足に直撃し、左親指の付け根を骨折した。	62	30203	1~9
3	14~15	ヤード内にて整備作業中、A支柱（14kg/本）を1本運搬し、部材の上に置く際に部材を倒し、右手親指を挟み負傷した。	64	80409	10~ 29
		資材置場にて業者より納入された鋼材（総重量1115kg）をトラックから			

3	11~12	荷下ろし後、フォークリフトで移動する為鋼材の下に角材を入れようとした。その時、フォークリフトの爪の上に左足を踏み入れてしまい、その瞬間に鋼材が足のほうへ滑り、フォークリフトと鋼材に左足を挟まれ、左足の内側くるぶしの上を骨折した。	59	11301	300 ~ 499
3	9~10	水道配水管埋設工事現場で、ダンプに積載された土留材をバックホウにて吊り降ろしする作業中、オペレーターの指差呼称、周囲の確認不足、及び被災者の足元確認、土留材が転倒するかもしれないという予知不足により、手前の土留材を吊り上げた後、奥の土留材に玉掛ワイヤーをセットしようとした際、突然土留材が転倒し、被災者の右足首が挟まれた。	53	30110	10~ 29
3	14~15	工場G棟の鋼板棚にて、斜めに立てかけてあった t 16×1500×2000の鋼板を、イーグルクランプで挟み吊り上げようとしたところ、その板の前に不安定に立てかけてあった約170kgの鋼板 (t22×640×1500) が動き、左足に倒れ掛かったため右手で支えようとしたが支えきれず、地面との間に左足を挟まれ、足首を骨折した。	57	11301	100 ~ 299
4	10~ 11	当社メッキ加工作業場内にて (メッキ加工最終工程)、水洗い後、メッキ付着量を計量するため、台秤で測定しようとした際に発生した。クレーンで吊った状態から安定した状態 (前倒しして平にする) で測定するため、手前に倒そうとしたとき、なまし鉄線1本で吊っていた鉄板重ね8枚 (1000mm×1300mm×450mm重量470kg) が倒れ、作業員右足を圧迫し負傷した。原因は、加工製品の重量に対するなまし鉄線の選定と使用状況、および作業員数を増やすなどの状況判断の甘さにある。	67	11209	1~9
4	13~ 14	塗装場にて1人で立て掛けてあった扉の枚数を確認していた所、4枚目の扉を立てたため支えきれなくなり、扉が倒れて下敷きになった。	29	11209	10~ 29
4	12~ 13	積込場所で鉄骨荷物を積む際に崩れそうになり、とっさに右手で押さえようとした際に負傷した。	55	40301	10~ 29
4	16~ 17	第二工場仕上げ作業場にて、高く積み重ねられた製品をクレーンで吊り上げた際、積み重ねられていた製品が崩れ怪我をした。	54	11209	10~ 29

4	11~ 12	当社資材置き場において資材整理を行っていた時、移動中に鉄筋を束ねてある上に飛び乗ったところ、鉄筋が崩れ、バランスを崩し転倒してしまった。その際左手から先についた為、左示指を骨折負傷した。	52	30201	1~9
4	10~ 11	第1工場板金場にて、L型鋼材（22本、長さ6m）を専用台車を用いて搬送していた（3人の共同作業）。その際、鋼材置場の入口が狭いため台車の切り返しを行った時に鋼材が専用台車の片側に寄り、台車のバランスが崩れて横転し、鋼材が作業者の両足膝下に乗り骨折した。	53	11502	1000 ~ 9999
4	10~ 11	コイル置き場の中でコイルにワイヤーをかけようとしたとき、コイルのバランスが悪くそのまま倒れてきて、コイルが胸に当たって飛ばされ、地面に背中を打った。	70	11001	10~ 29
4	2~3	コイル材置場にて95mm幅のコイル材をホイストで運搬する為、チェーンをコイルに通そうとチェーンを下ろしコイル中央からチェーンを手で掴んだ時に、チェーンでコイル材が引っ張られて転倒し、転倒したコイル材と隣のコイル材の間に左腕を挟まれた。	47	11502	100 ~ 299
4	11~ 12	使用していない鉄製簡易水槽が邪魔になり、管理者の指示は無かったが、利便性向上のため溶接機で切断解体作業を行っていたところ、切断した水槽側面部が倒れ、左足の指先から甲にかけて直撃した。	73	170209	100 ~ 299
5	10~ 11	足の下で片付け作業をしている時に、足場の部材が倒れ落ちてきて背中に当たった。当初は打撲だと言われたが痛みが取れず、後日に腰椎突起骨折だと診断された。	36	30309	10~ 29
5	9~ 10	当社場内作業場において足場材（3.8mの支柱）の整理作業中、積んでいた足場材にストッパーを掛けずにいた為足場材が崩れ落ち、左足を挟み負傷した。	17	30209	10~ 29
5	11~ 12	個人宅において、外壁及び雨樋工事中、解体した単管足場を積み重ねていたところ崩れ（長さ約3m、重さ5~6kg）、左足の上に落ちて左足小指を骨折した。	22	30209	1~9
	11~	当工場内において鋼材をクレーンで移動させようと吊り上げたところ、			10~

5	12	床に2段積みで置いてあった鋼材の上段に当たり、その鋼材が左足の安全靴の上の部分に落ちて、甲の部分骨折した。	58	11209	29
5	15～ 16	工場1階でアルミ表面処理ラインのロードストック架台を組立中に、鉄製部材（150D×4,150W×2,440H、約350kg）をフォークリフトで起こし、立てた状態で被災者が支えていたが、鉄製部材が傾き倒れ始め、それを支えようとしたが支えきれず、鉄製部材と床面との間に顔面から胸部にかけて挟まれた。	30	30202	1～9
5	17～ 18	出張作業中、同社工場構内で鋼材の整理中、溶接用ケーブルが梁仕上げの先端に引っ掛かり、それを若干引っ張った時に梁材が不安定だったので倒れ、左足首に落下した。	39	11209	1～9
5	15～ 16	工場内で、溶接後のグラインダー作業中に発生した事故である。現場には、前任者が以前より壁に立て掛けていた鋼材があり、長い年月積み重なった不安定な状態であったが、時間に追われた作業のため鋼材を全て整理できないまま、作業を続けなければならなかった。一人での作業のため災害発生時に助けを呼べず、鋼材が倒れて作業台と鋼材（鋼材の重量は100kg以上）に15～30分程度右腕を挟まれていた。	42	11409	10～ 29
5	10～ 11	倉庫の壁を直すのに足場を組んでいた時、鋼管が倒れて落ちてきて、手骨にひびが入った。	69	30209	1～9
5	10～ 11	工場内において、2人で鉄骨（約50kg）を1個ずつ運ぶ作業中、パレット上に鉄骨を積み上げていたとき（高さ35cm）、運ぼうとした鉄骨の下にあった鉄骨が荷崩れし、その鉄骨の角が左足の親指に落下し負傷した。（ミキサー車の置場に邪魔になるので、片付けて広くするため手伝っていた。）	59	40301	1～9
5	14～ 15	鋼製の角パイプ（長さ1.2m×幅0.2m×0.2m、70kg）を12本製作し、立てた状態で仮置きしていた物を少しずれして並べていた時、横の角パイプが倒れて左足の甲辺りを挟んだ。	31	11501	50～ 99
		第5工場建屋内東側にある素材置き場にて、D22用スタンションに仮置きしてあった材料を取り出すため、玉掛け作業で地切した際に、隣のスタン			100

6	15～ 16	シヨンD19の材料が被災者側へ荷崩れし、そのあおりを受け、仮置きしてあった素材用のスタンションと荷崩れしてきた素材に右足を挟まれた。	37	11209	～ 299
6	14～ 15	当社工場にて、板の厚みを測る作業中、60cm程に積み上げた鋼板の上に右足を掛けた際、積み上げた鋼板のバランスが悪かった為に鋼板が崩れてしまい、右足くるぶし部分を裂傷し、7針縫ったものである。	59	11009	1～9
6	10～ 11	当事業場製品置き場において、フォークリフトを使用してH形鋼を台座に移動する作業中、切り欠きのあるH形鋼を誤って切り欠き部分を下にして置いたため、隣に置いてあったH形鋼に倒れ掛かってしまったので、フォークリフトから降りて手で動かそうとしたところ、倒れ掛かっていたH形鋼が台座の上で倒れ、そのH形鋼と台座の間に右示指が挟まり負傷した。	58	11209	10～ 29
6	13～ 14	当社工場内において、H鋼のショットブラストへの送り作業中、積んであったH鋼（40×20×200cm）がバランスを崩して倒れてきたため、左足膝下に当たり負傷した。	66	11209	10～ 29
6	16～ 17	工場内において、倒れ止め補強支柱の溶接が小さすぎて溶接が外れ、品物が転倒し、右足大腿部の上に倒れて切れてしまった。	51	11209	1～9
6	14～ 15	トラックに機材を積み込み作業中に突然、横に置いてあった鋼材（長さ3m）が倒れてきて、逃げきれず右腕を打撲し負傷する。	67	30209	1～9
6	14～ 15	工場内にて鉄骨階段の溶接作業中、架台に載せてあった階段に足を引っ掛けたことによって階段が倒れて、架台と階段に挟まれ、左足の甲の部分を切り、9針縫った。	46	11209	1～9
6	8～9	トレーラーで搬入された鋼材（φ225、5800mm、1.8t）をトレーラーから鋼材置き場へ天井クレーンで運ぶ作業をしていた。2本の鋼材をワイヤー2本掛けの玉掛けで運搬し、作業員Bがクレーン操作で段積みされた鋼材上に着地させた。被災者と作業員Cが転倒止めに掛けて、作業員Cが鋼材後部にバールを差し込み仮固定し、作業員Bがフックを少し下げる操	22	11301	1～9

		作をした後に、被災者が被災者側のワイヤーをフックから外した。着地させた鋼材の下に敷いていたリン木角材が下方向に下がり、荷崩れを起こして、被災者の足方向に転がった。被災者は避けようとしたが、足の上甲上に転がった鋼材に挟まれて受傷した。			
6	3~4	自社資材置場で、ピケ材の柱（長さ約3.8m、重さ約15kg）の片付け作業中、1本ピケ材の柱を壁に立て掛けていたが、不安定だったせいか、柱が倒れてきた。咄嗟に左手で受け止めたが支えきれず、地面に置いていた鉄かごの縁と柱のコマの部分とで指が板挟みになり、負傷した。	33	30209	1~9
7	19~20	会社の置場でトラックに足場の積み込み作業をしている時に、足場のパイプのバランスが崩れてしまい約40本の足場が全身にぶつかり、全身を負傷してしまった。	17	30209	1~9
7	8~9	自社倉庫にて鋼材出しの作業中にチャンネル（5mm×100mm×50mm 重さ約50kg）を1本手で引き抜こうとした時に、その勢いで持っている方の反対側が横すべりし、手で支えきれずに手を離してしまい、右太ももから右足首にする様にすべって右足首を5針縫うケガをした。	45	80109	10~ 29
7	11~12	会社の敷地内でダンプカーの荷台に上がる際、左足をステップ（地面より約60cmの高さ）に置き、右足を荷台（地面より約1.2mの高さ）の中に入れて上がろうとし、荷台の上に立て掛けてあった鉄板10枚（縦0.9m×横1.8m×厚さ5mm・1枚あたりの重さ約70kg）の上部に手を掛けたところ、鉄板10枚が倒れ、鉄板と荷台のあおり（側壁）に右足の下腿を挟まれ、骨折した。	66	30201	1~9
7	15~16	材料置場のテント内において、材料（コイル状）の下に敷くレールを2人で移動させていた。その最中に立て掛けていた材料が後方から倒れてきて下敷きとなり、肋骨・背骨を負傷した。	48	11202	50~ 99
7	10~ 11	工場で吊り物をしている時に横にあったH鋼に引っ掛かり、その物がたおれて足首にあたりけがをした。	59	11209	1~9
	16~	プラント設備修理中の設備を回転させる作業に当たっていて、吊り支点となる鉄骨部材をはわせチュシブロックにて巻き上げた際、支点となる			

7	17	部材がたるみ落下し被災者の後頭部に当たり、はずみにて倒れ前頭部を負傷した。	49	30302	1～9
7	9～ 10	会社工場内の塗装小屋において室内クレーンを使い製品の整理の作業をしていたところ、吊り具を製品に引っかけてしまい、そのはずみで製品である鋼材（1.5t）が倒れ、本人の両足大腿部を直撃したものである。	26	11209	10～ 29
7	15～ 16	当社工場内において、製品の建築用ベース金物（150角型鋼：高さ300mm・厚12mm、ベースプレート：300×300・厚16mm・約25kg）のロボット溶接後の点検をするため、作業台の上に製品を並べていた。作業台の上に製品を2段重ねで並べていた際、上段に重ねようとした製品が上手く載らずに、作業台の上に倒れ落ちてきてしまい、軍手をしていた右手の甲に製品がぶつかり、負傷した。	62	11209	50～ 99
7	15～ 16	立てかけてあった鉄板の塗装をする際に、とめてあった受け台を外して作業しようとしたとき、自分の方に倒れてきた鉄板（200kg～300kg）の下敷きになり、顔面を打ち負傷した。	26	30209	1～9
7	7～8	当社資材置き場で、足場部材を積んだトラックのバタを開いたときに荷崩れし、左手拇指・示指の間を部材と荷台の床に挟まれ、打撲した。	19	30209	10～ 29
7	9～ 10	鉄骨造4階建て新築工事の現場で、1階の段ボール作業室にて、床嵩上げコンクリート打設中に、立て掛けていた建具枠が倒れてきて、被災者の腰とふくらはぎに当たった。	46	30201	100 ～ 299
7	14～ 15	工場内の入口付近で、C型チャンネルで組んだ製品（横2800、縦1300）を脱脂中に、本人が製品に当たり倒れ掛けたときに、倒れないように押さえた結果、足の上に製品が倒れ、安全靴を履いていたが、足の甲に酷い腫れが生じた。	45	11204	10～ 29
7	9～ 10	材料置場で材料を支えていた際、材料が倒れて来て、右足が挟まれた。	36	11209	10～ 29
7	8～9	型枠組立中、つま枠に部材を取り付けているとき、つま枠を支えていた厘木が倒れ、つま枠が倒れてきた。	47	10901	10～ 29

7	15～ 16	工場内、作業加工場にて重さ約60kgの材料（加工前屋根材、コイル、ガルバリウム鋼板）を整頓作業中、材料が倒れるなどの落下があり、それを保護するように右手で材料を受け止めた。その際、材料と床とで右手を挟まれ、右手を負傷した。	26	30309	1～9
9	11～ 12	金属材料を積み上げている台から、材料の一つを取り出そうとしたところ、積み上げている下の部分の材料を取ってしまったため、上部の材料がくずれてきて負傷したものである。	26	11209	10～ 29
9	10～ 11	基礎工事中、砕石をならしている時、立てかけてあった、鉄板の6m/mが倒れて胸に当たった。	50	30199	1～9
9	20～ 21	支店のホーム上で、荷物の積み込み作業終了後、渡し鉄板を立て、ラッシングベルトで固定しようとベルトに手を伸ばした際、鉄板を押さえていなかったため、それが倒れてきて左くるぶし上を強打した。何とか運転も出来そうだったので痛みを堪えて運転し、朝方会社に帰ってきた。	45	40301	50～ 99
9	15～ 16	弊社の資材置場にて、足場材を片付け作業中、立てかけてあった足場材（鉄）がたおれ、右足にぶつかり転倒し、腰及び右足を強打したものである。	43	30209	1～9
9	11～ 12	工場の外のウマの上で、厚さ6mm長さ6m重さ100kgの鉄骨加工中、1人で回転させた為、片方が転がり反動で人がいる方にも転がり、足に落ちた。	47	11209	1～9
9	15～ 16	工場内東側のトラックピットコイル台にて、2組のコイル材をまとめる作業をしていたところ、そのうちの1組が倒れ掛かったため、被災者が補助として押さえたが、2組のコイル材をクレーンのフックにかけようとした際に、2組ともコイル材が倒れてしまい、右臀部の下を切った。	34	11203	—
9	13～ 14	工場内東側のトラックピットコイル台にて、2組のコイル材をまとめる作業をしていたところ、そのうちの1組が倒れ掛かったため、被災者が補助として押さえたが、2組のコイル材をクレーンのフックにかけようとした際に、2組ともコイル材が倒れてしまい、右臀部の下を切った。	54	170209	30～ 49

		た状態で片膝を荷台についた姿勢でワイヤー掛けをしていた、下を向いてロープ締めを行っていたので、巾せまいコイル2個が倒れてきたのに気付かず、右足首上にコイルが倒れこんだ。			
9	21～ 22	搬入口にてトラックの荷室内へスチール家具（事務用ロッカー・机・棚等）を廃棄するのに積み込んでいたところ、分解したスチール製の棚の支柱（L字型2m）2本を合わせた物が2本、荷室内でかがんで作業していた、頭部に倒れてきてケガをした。痛いと思ったがそのまま作業を続けていると近くにいた人が「すごく血が出てる」と言われ、トイレの鏡を見て出血を確認した。	51	40301	10～ 29
9	14～ 15	プレハブ部材積込中、運転手の合図にて、積込者が部材を荷台へ卸したが部材下部のプレートとリン木が干渉し、1本が転倒した。その際、運転手の左足に接触して負傷（裂傷）した。	53	40301	30～ 49
9	11～ 12	工場内にて寸法確認作業をしていた時、製品1（高さ3M巾3M程度の箱型）に万力で上下2ヶ所固定していた鋼材（H鋼100×100×6×8/2M程度）が、固定がはずれ倒れかかってきた、避けようとしたが、背後にあった製品2（高さ1M巾2M程度）との間に右足をはさまれた。	34	11209	10～ 29
10	7～8	本社倉庫に於いて、鋼部搬出の為、鋼部の下に置く台木を取りにチャンネル鋼材の上を壁際に向かって歩いていた際に隣に、積んであった木の束（約2t）の一部が崩れながらも滑り乗っていた。鋼材との間に左足が挟まり左足首を骨折及び右足を打撲した。	46	80109	10～ 29
10	11～ 12	工場内で鋼材の運搬のためクレーンで吊り下げた鋼材が倒れ、足に乗ったため左足のすねを骨折した。	67	11209	1～9
10	18～ 19	工場2階、集塵機横の空紙袋置き場にて、計量作業に使用する空袋約10枚を取ろうとしたところ、集塵機横に固定せず立て掛けてあった鉄板（約35kg）が倒れ、左足脛部を負傷した。	55	10805	10～ 29
10	9～	台に置かれていた重さ約100kgのL字鋼の束から順次L字鋼を作業台へ持ち運ぶ作業をしていた。L字鋼を運ぼうとした際、誤って台に体を接触	50	11209	50～

	10	したため、束が崩れ、崩れたL字鋼で左手を挟み、左手小指、左手首を負傷した。			99
10	14～ 15	屋上にて鉄骨を裁いている際に、手元が滑って近くにあったH鋼に当たり、それがずれて後部より右足へ乗っかって来て負傷した。	60	30201	1～9
10	13～ 14	車両用部品工場アルミ型材加工職場（2B工場）でアルミ長尺型材の運搬作業中に、梱包状態で地面に3段積み重ねていたアルミ長尺形の機材が4本目に型材を上に乗せた際にバランスを崩し右足の「スネ」を打撲した。	62	11503	500 ～ 999
10	10～ 11	新築工事現場において山留工事に伴う機材搬入の際、トラック荷台の後方に置いていた道具箱を吊り上げて移動したときに、前方部に置いていたプラントに立て掛けていた敷鉄板（t9×3×6）2枚が玉掛け作業をしていた被災者の方へ倒れた。被災者は、敷鉄板と荷台の間に挟まれ右足側頭部を骨折した。	21	30201	1～9
10	18～ 19	工場内で柱上部を溶接するために、脚立を利用して3m位の高さから柱に乗ったところ、バランスを崩して柱ごと地面に倒れた。安全ベルトをしていなかった。	49	170101	10～ 29
10	4～5	土砂置き場改良工事作業中、現場は海沿いで、台風の影響も受け、足元も悪かった。式鉄板の泥を洗い、汚れを落としている時に重ねた鉄板が、ずれてきたので思わず支えて右手を鉄板とコンクリート床に挟まれ、右手の平を挟み全体を負傷した。	48	30199	1～9
10	9～ 10	トラック荷台でケースの積み込み作業中、立て掛けていた中柱が倒れてきて避けきれず右足を負傷した。	62	40301	10～ 29
10	8～9	当社工場内でターニングローラー上に載せている船舶用ボイラ胴板（内径2,000mm、奥行き1,200mm、厚さ16mm、重量950kg）の開先をグラインダーで研磨した後、胴板を天井クレーンで移動させるために取り付ける金具を探していたところ、胴板がバランスを崩して落下した。被災者は胴板が背中上部に当たった衝撃で転倒し、近くにあった他の製品（船舶用ボイラ下管寄せ）で胸部を強打して負傷した。	41	11301	30～ 49

10	13～ 14	足場架設準備中、鋼製足場が倒れてきて転落。	70	11501	1～9
10	8～9	朝礼後、1F外部足場外側に立て掛けてあったワイヤーメッシュ13枚を固定していたトラロープを外し7枚を玉掛けしようとした際、立て掛けていたワイヤーメッシュの角度が垂直に近かったため、被災者に倒れてきた。	29	30309	10～ 29
11	9～ 10	倉庫内で荷物の整理中に長物を壁に立て掛けて作業していたら、先に立て掛けた物が右手親指に倒れて来て負傷した。	32	50101	10～ 29
11	9～ 10	工場内で台車に立て掛けて置いていた3枚の鉄製のパネル（2300mm×700mm）を作業台へ移動させる際に、一人でパネルを支えながら協力者を待っている時に、パネルのバランスが崩れ、覆いかぶさるように次々と倒れてきてパネル下敷きになり、掛けていた眼鏡で右目蓋周辺が切れ、右上半身に打撲を負った。	19	11409	100 ～ 299
11	9～ 10	当社工場内において加工した鋼材の場内移動中、被災者の手前側、そしてその奥と2本並んでいた大梁材のうち、奥の大梁材を玉掛け・吊り上げた際、手前側に置いてある大梁材（H-600×200）に引っ掛かり、それが被災者側に傾斜し、とっさに受け止めようとしたが、重量物のため受け止めきれず、正座した体勢になり両腿に倒れ込み、負傷してしまう。	23	11209	10～ 29
11	8～9	当社、工場内のコイル置場において、順送りの材料をレベラーにセットする作業中のことだった。コイル収納ラックの柱の外側に立て掛けてあったコイル（外径1200mm×内径500mm×幅700mm、重量750kg）を移動させるためクレーンで吊り上げようと、チェーンをコイルの内径に入れようとしたが、ラック柱との隙間が狭くチェーンを入れられなかったため、隙間を広げようとバールを使いコイルを動かしたところ、コイルが倒れて下敷きになり、右大腿部を骨折した。今後は、転倒防止ラックを活用し、チェーンやバンドで固定して転倒事故を防止する。	50	11203	10～ 29
		支店にて、大型トラックに商品を積み込む作業中、最後数個の積み込み			

11	21~ 22	となり、ラッシングバーを荷台後部に施して、そこに鉄板を立て掛けた後、ラッシングバー越しに商品を積み込んでいたところ、鉄板（荷役時に使用する鉄板）が倒れ、右足アキレス腱部に当たり、8針を縫合する切創を負った。	61	40301	100 ~ 299
11	9~ 10	工場内にて作業中に、足元に鉄板を並べて置いて動かそうとした時、鉄板が崩れてきて左足指の上に落ちてきた。	69	11209	1~9
11	8~9	工場内を作業場に移動中、アングル（1,770×1,214の額縁）が倒れ掛かって来て、左足の上に倒れ負傷した。クレーン等で移動させていたものではなく、立てていたアングルが何らかの拍子に倒れて来て、左足が挟まったとのことである。	33	11209	30~ 49
12	16~17	鉄製手すり（フラットバー板厚約4mm、巾12mmで加工されたもの：大きさ・高さ約0.8m、長さ約3m、重さ約50kg、2枚）をフォークリフトで作業台の上に載せ仕上作業を行うため、1枚ずつずらしたところバランスが悪く、1枚が床に落ちたので作業台の脚に不安定な状態で立てかけたまま、もう1枚も落ちない様に2名で押さえていたところ、立てかけてあった1枚が被災者の被災者の左足甲にあたり負傷した。	29	11204	50~ 99
12	16~17	鉄製の手すり（フラットバー板厚約4mm、巾12mmで加工されたもの。高さ約0.8m、長さ約3m、重さ約50kgを2枚）をフォークリフトで作業台の上に載せ、仕上げ作業を行うため1枚ずつずらしたところ、バランスが悪く、1枚が床に落ちた。落ちた板を作業台の脚に不安定な状態で立てかけたまま、もう1枚も落ちないように2名で押さえていたところ、立てかけてあった1枚が被災者の左足甲にあたり負傷した。	29	170101	10~ 29
12	11~12	工場構内（1Fヤード）において、トラックの荷を下ろし、お客様が帰った後、鉄くずを手に持ち置場へ運んでいた際、置場を仕切っているH鋼（高さ30cm×長さ3m、重さ100kg）が足元へ倒れ、右足第二趾の付け根に当たり、受傷した。受傷当日は違和感があったが歩けたため受診しなかったが、後日痛みが発生したため受診したものである。	55	150102	10~ 29
		埠頭内にてトレーラーの荷台に積込作業中、建設機械部品（6.5m			

12	13~14	×1.2m×1.5m) を荷台におろした時に部品が倒れ、荷台横にあったガードレールと部品の間に挟まれ、右大腿骨・右脛骨・右腓骨を骨折した。	65	40301	10~ 29
12	15~16	構内立施盤の前にて、リング形状の鉄の素材を寝かすため、素材を立てた状態で一旦仮置きした。周囲のスペースを確保するために素材と反対側に向った直後、立て置きした素材がバランスの悪い形状であり、被災者の右側より素材が突然倒れ、被災者の右膝付近に当たり、後向きで尻もちついて倒れたあと、素材に右踵を挟まれて骨折した。	52	11301	1~9
12	16~17	在庫用資材の荷受けと立ち会いのために行った当社倉庫にて、協力会社従業員が、フォークリフトで資材（鉄製棒、約6m×14kg）をトラックから降ろす作業を行っていたところ、資材を移動中に資材が荷台からずれ落ち、足に当たって負傷した。	27	80209	10~ 29
12	14~15	ガソリンスタンド建設中の建築現場で、鋼管杭打ち作業中、杭打ち後に高止まりし、地上に出ていた杭を切断後、吊り上げて横倒しするためにワイヤーを掛ける作業をしているときに、切断して自立していた杭が、完全に縁が切れていたため、鋼管杭が傾き、玉掛け作業をしていた被災者の方に倒れてきて、被災者が杭の下敷きになった。	48	30201	1~9
12	14~15	当社工場内で、鉄骨の仕口を組み立てる作業中に、ホイストで仕口を吊り上げ、反転させて下ろしたとき、仕口が左右対称でなかったため、バランスが崩れて自分の方へ倒れてきた。その際に避けきれず、左足の脛に当たり、負傷してしまった。	62	11209	10~ 29
12	9~10	新築工事現場において、2tトラック荷台側面より耐水石膏ボード（900×1,800）を降ろし、運ぼうとして進行方向へ向いたところ、一緒に並んでいた耐水石膏ボードが足元に滑り落ち、右足膝下部分に当たり、骨折負傷をした。	65	30202	10~ 29
12	8~9	本人は、本社工場内でトラック荷台に工具類を積み込み中に、工場内北西側に積み置きしていた鋼製パイプ（長さ4m・重量約30kg/本×20本）に歯止めを緩衝した際、パイプが荷崩れを起こして落下し、右足甲に当	30	11702	30~ 49

		たり受傷した。			
12	11~12	工場内の溶接作業場で、自立する金属製鉄板部材（長さ5m×高さ50cm位）の溶接作業に従事していた。通常は、金属製鉄板部材の製品につっぱり棒を入れるか、寝かせて作業をするが、当日はそれをせず、製品を立てて作業をしていたところ、溶接で歪みが入り、動いたはずみに左足甲の上に倒れ、左足甲に打撲・骨折の怪我を負った。	56	11501	10~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_08.html